



ひまわり

>人としての尊厳にふさわしい処遇をく

72号

編集発行
 明石地区
 手をつなぐ育成会
 広報・渉外部
 明石市相生町2丁目7-12
 勤労福祉会館あすく内
 TEL 078(945)5519

ホームページ：<https://akashi-ikusei.net>

どうでしょうか？

これからの育成会 その2

明石地区手をつなぐ育成会会長 四方成之



ちの生活や余暇を豊かにし、家族や仲間たちとの交流を深める)

2025年度も終わりに近づき、新しい2026年度を迎えようとしています。

会員の皆様、また理事としてこの一年間会の運営にかかわっていただいた皆様方から感謝を申し上げます。

さて2025年度は新規会員の加入(特に学齢期)が少なくという問題を少しでも改善することを目標にいたしました。現実には厳しく2025年2月と本年2月の同月比では三十数名の減少に至りました。

これは従来からの多数の会員が利用する事業所の保護者会の解散に伴い育成会役員の選出も困難となり、役員を引き受ける時間や意欲もなく全体をまとめることも困難になってしまったこととが大きな要因ではないかと思えます。

一方では育成会の加入を続けるに足る魅力がないとの意見も考える必要があります。このような問題解決に

即効性のある妙手はなく地道な活動と啓発によってしか道はないでしょう。

どうする育成会? これは皆さんと一緒に考え、行動することによってしか答えは見つけられないのです。

考えてみてください、もし子供たちに何か問題が起これ、内的要因であれ外的要因であれ、この問題に一人だけで悩み、考え行動できませんか?

確かにいろんな相談窓口や、支援の手は差し伸べられるかもしれませんが、同じ悩みや苦しみを共有する仲間ほど心強く頼りになる存在はありません。

当会は結成以来68年になります、大きな目標はすべての知的障害児者のために、「人としての尊厳にふさわしい処遇を」求めることですが、具体的にどうでしょう。

先ず明石地区手をつなぐ育成会としての活動内容を考えましょう。

①知的障害者の困りごとを広く伝え支援の方法を問題として提起する。(まねっこ隊活動)このために育成会は事業体としてではなく、運動体としての活動を選びました。

つまり当会としては「明石市」、県育成会としては「兵庫県」、全国手をつなぐ育成会連合会としては「政府」に対してそれぞれが各種要望書や、政策提言等を行う。

②知的障害者の抱える各種の問題を学習会や研修会の実施を通じて理解を深め、対策を考える。(例えば成年後見制度、グループホーム・体験ホーム・ショートステイ、障害基礎年金、障害福祉サービス制度、災害・避難、65歳問題等)

③育成会の継続した行事の実施(ふれあい旅行、クリスマス、ボウリング大会、食事会など本人た

最近、理事の人数も減少しています。会員の皆様ができる範囲で育成会サポーターとしてお手伝いが可能な時のみで結構ですから一緒に活動してください。
ご存じですか、「育成会のホームページ」を立ち上げました。

akashi-ikusei.net けれど検索すればすぐご覧になります。ここには詳しい情報や理事会などいろいろな記事が満載ですので見てください。

また明石市立勤労福祉会館内の育成会事務所(ASK事務所)では、毎月第2、第4金曜日10時~14時までは会員の皆様が自由に集まりお茶を飲みながら、おしゃべりや相談ができます。

学齢期の会員様には「学齢期会員お茶会」も開催しています。

2026年度は楽しく活動をする「育成会」にするようにぜひ皆様の活動参加をお願いいたします。
ご意見、ご質問、ご連絡をお待ちしています。

原点を忘れず、地域と共に歩む明桜会

社会福祉法人明桜会 理事長 小松 正和



明石地区手をつなぐ育成会の皆さまには、日頃より障害のある方々とそのご家族のために、温かく、そして粘り強い活動を続けてこられましたことに、心より敬意を表します。

このたび、社会福祉法人明桜会の理事長を拝命いたしました小松でございます。まずは、明桜会を生み、育て、今日まで支えてくださった育成会の皆さまをはじめ、多くの関係者の方々に深く感謝申し上げます。明桜会は、育成会の皆さまの切実な願いと行動力によって誕生した法人であり、その原点を決して忘れることなく、今後も歩みを進めてまいります。私と育成会とのご縁は、昭和五十一年にさかのぼります。大学四回生であった当時、木の根学園にボランティアとして通わせていただきました。利用者の方々と、保護者の皆さま、そして職員の方々

との出会いを通じて、障害福祉の奥深さと楽しさ、人と人が支え合うことの尊さを学ばせていただきました。この経験は、その後の私の人生と福祉観の礎となっています。

その後、神戸で福祉の仕事に携わり、平成十二年四月から大地の家の施設長として働かせていただきました。大地の家の五十名の利用者様だけでなくより多くの会員の皆様によりよいサービスを届けたいとの思いから、さまざまな事業に挑戦し、今日の明桜会へと歩みを重ねてまいりました。

明桜会が果たすべき使命は、「すべての知的障害のある人々が、一人のかけがえない存在として、地域の中で豊かな生活を送ることができる社会を、明石地区手をつなぐ育成会をはじめ、行政機関や福祉関係団体、地域の皆さまと共に育ん

でいくこと」です。どんなに障害が重くとも、その人らしさが尊重され、安心して暮らし続けられる地域社会の実現に向け、行政との連携をより一層深めながら、制度と現場の双方を見据えた福祉の実践に取り組んでまいります。

理事長として、これまで明桜会を築いてこられた先人の思いと責任を確実に引き継ぎ、利用者様お一人おひとりの暮らしと人生に最後まで向き合う覚悟です。育成会の皆さま、そして明石市をはじめとする行政機関や関係団体と、時には課題に正面から向き合いながら力を合わせ、誰もが安心して暮らし続けられる地域づくりに、取り組んでまいります。

育成会様の益々のご発展と会員の皆様のご健勝とご多幸を心より祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

2025年度 明石地区手をつなぐ育成会 主な活動

- 5月21日 2025年度定期総会 (勤労福祉会館 多目的ホール)
- 7月10日 明石市の障害福祉サービスについての説明と意見交換 (勤労福祉会館 第5会議室)
- 7月12日 学齢期お茶会 (勤労福祉会館 A S K 事務所)
- 7月31日 2025年度 東播磨地区会長懇談会 (加古川総合福祉会館)
- 9月 6日 職業体験事業 (キッザニア甲子園)

キッザニア 甲子園

まだまだアクティビティには付き添いが必要ですが、待ち時間や写真を撮るときなど1人で過ごせる時間が昨年より増えたように思います。成長を感じることが出来るイベントになっています。

今里 柊介さんの保護者より



今里 柊介さん

- 10月11日 親子ふれあい旅行 ～神戸須磨シーワールド～
- 10月12日 神戸刑務所矯正展 バザー出店 (神戸刑務所)
- 10月25日 わくわくオータムフェスタ 出店 (ふれあいプラザあかし西)
- 11月 8日 第10回 全国手をつなぐ育成会連合会
～11月 9日 全国大会東京大会／本人大会
併催 第59回手をつなぐ育成会 関東甲信越大会



親子ふれあい旅行

- 11月 9日 防災訓練 (大観小学校)
- 11月18日 まねっこ隊活動 (兵庫大学付属須磨ノ浦高等学校)
- 11月19日 令和7年度 大人部会【併催 権利擁護委員会研修会】
(勤労福祉会館 A S K 事務所)
- 11月22日 学齢期お茶会 (勤労福祉会館 A S K 事務所)



神戸刑務所矯正展

- 11月29日 第64回 近畿知的障がい者福祉大会
併催 第69回兵庫県知的障害者福祉大会
(尼崎市総合文化センター)

- 12月 6日 育成会 クリスマスのつどい
(明石市民会館大ホール)

クリスマスの つどい



- 12月18日 まねっこ隊活動
(神戸学院大学 有瀬キャンパス)

- 1月 5日 新年交歓会
(西明石ホテルキャッスルプラザ)

- 1月12日 成人お祝い

- 1月20日 研修会「成年後見制度」
(勤労福祉会館 A S K 事務所)

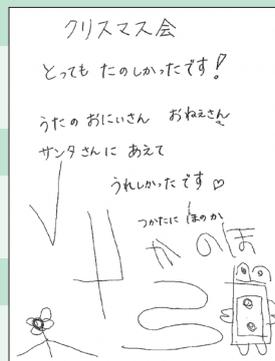
- 1月31日 学習会「障害基礎年金」(明石市民会館)

- 2月16日 令和7年度施設・事業所部会オンライン研修会
【併催 相談員研修会】
(勤労福祉会館 A S K 事務所)

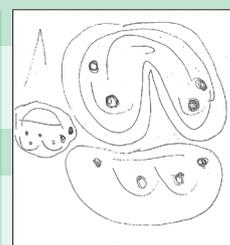
- 2月22日 明石地区手をつなぐ育成会交流ポウリング大会
(スーパーボウル二見)

- 2月26日 東播磨ブロック保護者研修会 (加古川市民総合会館)

- 3月 卒業生お祝い



塚谷 穂花さんの保護者より



塚谷 穂花さんとサンタ

成人おめでとうございます

久世 倫太郎 さん

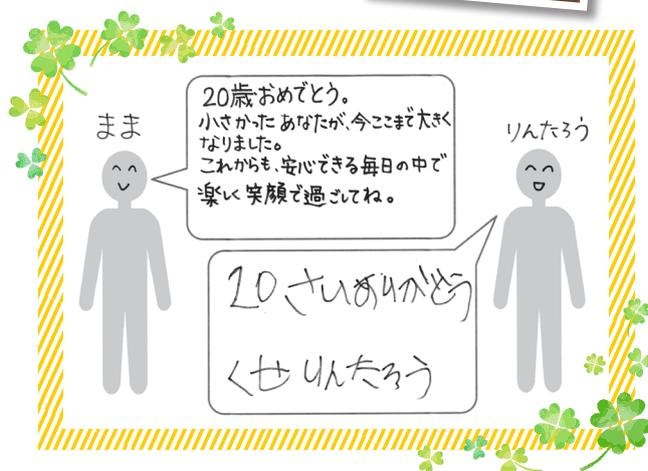


清水 秀夫 さん

成人のお祝いをもらい嬉しかったです。ありがとうございました。これから成人として頑張って、悔いのない人生を送っていきたいと思います。

<清水さんのお母さんより>

二十歳のお祝いありがとうございます。はたちと言われてもまだまだ気持ちの違いがないところですが、一つの節目を元気に迎えられたことは嬉しいことです。去年は本人の頑張りや周囲の皆さんの支援によって、新しい環境にも踏み出すことが出来ました。これから少しずつ経験を積み重ねながら、自分なりの生活の形を見つけていってくれたらと思います。



まねっこ隊の活動を頑張ってます!!

肢体障害の方や、聴覚・視覚障害者の方々には会話の支援(手話・要約筆記・点字など)や補助具(車いすや補聴器、白杖、夜間用メガネ、など)があり認知されやすいのですが、知的障害児者は一見普通に見えるのに、急に大声を出したり、思いもよらない突飛な行動を起こす為、「何をするのか分からない」=「危険な人・怖い人」と思われがちです。

そこで、「まねっこ隊」は彼らの特性を知ってもらい、理解者を増やすことを目的として活動しています。といっても、そんなに難しいことをするのではなく、簡単な実験に参加してもらい、彼らの物の見方、感じ方などを疑似体験してもらうことで彼らへの理解を深めてもらえたらと考えています。

今年度は主に須磨の浦高等学校福祉学科の生徒さんや神戸学院大学リハビリテーション学部の学生さんたちに体験学習に参加していただきました。



神戸学院大学



須磨自治研修所



兵庫大学附属須磨ノ浦高等学校

編集後記

「ひまわり72号」をお届けします。発行に際しましては、多くの方々からのご支援ご協力ありがとうございました。紙面をお借りしてお礼申し上げます。